

宮城

このいのちを
守り続けるひとになる



LEAF26



宮城県大崎市



特定非営利活動法人 LEAF26

LEAF26は、“みっけ”の気づきを共有し、 様々な“いのちを守り続ける活動”を 継続しています

LEAF26は、「いのちと地球を快適な環境に維持したい」を、共にする仲間。Life Earth Amenity Fellowshipとし、各頭文字でLEAF(葉っぱ)。この思いをA~Zまでの26文字(宗教や政治に染まらない白抜き文字)で伝えていく団体としました。私たちの主な取り組みは、出来ることから始めることです。それは、

- ①子どもたちの学習支援や地域づくりの支援を行う活動
- ②社会や生活環境の多様な問題・歪みなどについて、逃げずに取り組む活動
- ③多様性とジェンダー平等の新たなあゆみを希求する活動です。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について
上: 全体学習「何かいるかもよ」
下左: 田中川の水質調査などの探検風景
下中: まとめて環境と生態系の学習
下右: 松島町第二小の4年生は「田中川探検」をしたよ

〒987-1303 宮城県大崎市松山金谷字向田174-7
電話 0229-87-3026
E-mail leaf@leaf26.or.jp
URL <http://leaf26.or.jp/>



活動紹介

田中川探検 (総合学習支援活動)



捕獲したカニをカメラで記録



真剣な発表が輝いています

プロジェクト概要

松島町の二級河川田中川(約10km)において、毎年松島第二小学校4年生が行う「田中川探検」学習は、川の源流域(利府町赤沼)、上流域(松島町館ヶ沢)、中流域(松島町初原欠田)、下流域(松島町高城反町五)の4か所での水質調査(パックテスト)、天候・気温・水温の調査、水中生物、植物などの採取体験授業です。川の生き物を探る楽しさ、水とのふれあい、洞察・観察・捕獲体験から、生命の源である水、その水質情報から広がる生物の多様性を理解します。調査から得られた情報の整理と考察。個々の感性表現、整理・分析の思考力、個人やグループ内で集約・集計する共同力、考えを伝える発信力・ICT教育スキルを活用します。発表会后、ESDの取り組み手法の検討も含めて次回の探検学習に結びつけていきます。

ESD実践のポイント

「田中川の社会的変遷」「4地域の特性と水質階級別指標生物・エコトーン」を背景に、事前に4地点の現場確認と体験学習を実施して、本番学習時の、個々及びグループ毎のテーマと探検手法を定めます。本番の探検学習では、定めたテーマに沿って探検をします。しかし、天候等の変化の中で、成果物が十分に得られるとは限りません。その後の関連授業の中で、環境に関する学習も含め、俯瞰力や情報・知識を参考に、課題やテーマを整理します。数か月後の田中川探検環境学習発表会には、次年度担当学年の3年生も参加しますが、4年生は緊張しつつも爽やかに自信に満ちた笑顔で発表できるのです。支援団体、先生方からの質問・アドバイスもありますが、常に鮮度ある環境学習でステップアップしていくESDは、子どもたちの心に直接響く体験となっています。

担当者からのメッセージ

発表会では、英語を挟みながら課題の成果を延べていた。3年生に対して、クイズなどを出しながら理解を深める工夫など、アクティブラーニングが見られた。校長先生はじめ教諭もしっかりと見守っていたことが素晴らしかった。最後に、法人側の高い評価の感想コメント、環境クイズ、昆虫・植物・魚・風景等の画像放映を実施。子どもたちの「見たことある!」「キレイ!」「わあー」などの歓喜も多く、心に呼び掛ける感性を育むESD授業も無事終わりました。



特定非営利活動法人 LEAF26
理事長 村上 昌芳さん

秋田

Think Future Act Now
持続可能な社会実現へのデザイン



秋田市選挙管理委員会の全面協力を得て本物の記載台及び投票箱を使用

秋田県秋田市



一般社団法人 あきた地球環境会議(CEEA)

一般社団法人

あきた地球環境会議／CEEA

あきた市地球温暖化防止活動推進センター

一般社団法人あきた地球環境会議(CEEA)は、地球と共生する持続可能な脱炭素・循環型社会の形成を目的として、多様な環境活動を国内外で展開する実績を有しています。ESD活動拠点としては、地域小中学校の先生達と連携しながら構築した授業プログラム2件が、環境省の「ESD 環境教育モデルプログラム ガイドブック3」へ「MOTTAINAI(もったいない)の松林を秋田方式で未来へ」「地球の仲間とつながろう森の人「オランウータン」と一緒に生きる喜びを!」として掲載され全国へ発信されています。

本事業は、令和3年度気候変動アクション環境大臣表彰を受賞しました。

■組織・団体が取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について

上: グループワーク 仮政党的のスクールマニフェスト作成
下左: グループワーク
当選政党的のマニフェストのロードマップ(実行計画)づくり
下中: 実物の投票記載台や投票箱を使った模擬投票
下右: 「気候変動対策×主権者教育」集合写真

〒010-0912 秋田県秋田市保戸野通町7-33 2F
電話 018-874-8548
FAX 018-874-8548
E-mail info_ceeda@ceedakita.org
URL <http://www.ceedakita.org/>



活動紹介

「気候変動対策×主権者教育」プロジェクト



仮政党的の党首主張演説とディベート



講義(地球温暖化による気候変動の現状や予測)

プロジェクト概要

今後の社会や気候変動対策において次世代の意見が政策に反映されることがとても重要と考えています。気候変動対策を選挙等における争点に位置付けることができる市民を増やすことを目指し、気候変動に関わる環境教育として本プログラムを構築し実施しています。気候変動を題材とした主権者教育に関する講義と体験学習を通して、身近な環境課題解決への行動促進と模擬投票による社会参画意識の向上を目指すものです。具体的には、気候変動の現状・予測を学ぶ講義からスタートし、次に学校の特色を生かした対策について、仮政党的によるグループワークでの気候変動対策スクールマニフェストを作成する政策立案。その後、模擬投票を経て、当選仮政党的のマニフェストについて、全員で“誰が”“いつまでに”“何を”“どのように実現していくか”を、ロードマップワークシートを用いて具体化する行動実行計画を作成します。

ESD実践のポイント

1) 有限性: 地球温暖化や気候変動の学習を通じて、資源の有限性を学ぶ。2) 連携性: 環境問題と自分自身の生活や社会とのつながりを実感し互いに協力して課題解決する必要性に気づく。3) 責任性: 社会の一員として、自分たちの未来を創る責任があることを意識する。更に、本プログラム実施にあたっては、①中立性と客観性をもつこと、②意見の多様性を尊重すること、③目標を明確化すること、に注力しつつ、2030年をゴールとした実行計画を具体的に検討策定するところで落選仮政党的のマニフェストの考え方が復活するなど、最終的には地域を巻き込み社会へ貢献するロードマップが完成し、高校生一人一人の大きな成長が見られます。これにより、自らが責任を持って社会を創っていく思考形成と、将来的には地域イノベーションの核となる、あるいは政策決定等に関わる人材が育成されることが目標です。

担当者からのメッセージ

高校生の柔軟な発想や思考で描かれる未来の姿は毎回驚かされるものばかりで、持続可能な社会の実現に期待を持ち活動しています。また、新たに小中学生を対象に、故郷の魅力を理解した上で海外の友だちと気候変動対策と一緒に考える視点の「ワールド気候スタディーズESD/SDGs」をスタートし、キリバス共和国やパラオ共和国等とのオンライン授業を展開し、全国へ波及させる予定です。ESDを通して人材が育成されSDGsを達成することが大切と考えています。



理事・事務局長 福岡 真理子さん

山形



親子で学ぶ
カーボンニュートラル



特定非営利活動法人 環境ネットやまがた

山形県山形市



かけがえのない地球環境と 山形の豊かな自然環境を守るために

特定非営利活動法人環境ネットやまがたは、かけがえのない地球環境と山形の豊かな自然を守り、共存し、調和するため、社会を構成する人々及び団体が、環境を守る役割と活動の意義を理解し深めること、自主的な取り組みを促進すること、また、持続的発展が可能な社会の実現に寄与することを目的とし、活動しています。

山形県地球温暖化防止活動推進センターや山形県環境保全協議会事務局などとしても事業を行っています。

■組織・団体が取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について
上: 海ごみで作る万華鏡 (協力:NPO法人パートナーシップオフィス)
下左: 山形の山の話
下中: 学生が行う地球温暖化の話 (山形県学生環境ボランティア)
下右: 工作の実施

〒990-2421 山形県山形市上桜田3-2-37
電話 023-679-3340
FAX 023-679-3389
E-mail eny@chive.ocn.ne.jp
URL https://eny.jp/



活動紹介

環境・工作教室の開催



海ごみで作る万華鏡



自然素材を使ったリース作り

プロジェクト概要

山形県は、2050年に温室効果ガス(又は二酸化炭素)排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンやまがた2050」を宣言しており、当法人もその目標達成のために様々な活動を行っています。その一つが、山形県産業科学館の発明工房にて、年3回行っている「環境・工作教室」です。各回のテーマは「省エネルギー・再生可能エネルギー」、「森林」、「海ごみ」で、カーボンニュートラル達成のために重要なことをテーマにしています。参加者は、小学生以下の親子であり、「座学+工作」をセットにすることで、より理解が進む工夫をしています。また、山形県では大学生等に「学生環境ボランティア(やまかボ・サポーター)」を募集し、登録しています。「省エネルギー・再生可能エネルギー」では、そのメンバーが講師となり、座学では再生可能エネルギーの話やクイズを行い、その後ソーラーランタン作りを行いました。カーボンニュートラルという大きな世界のことを学びながら、地域で実践している身近なエネルギーのことを考える時間となりました。

ESD実践のポイント

山形県の第4次環境計画では、持続可能な社会をけん引する人づくりを施策の柱として、環境問題を「自分ごと」と捉えることができるような事業を展開しています。当法人でも環境・工作教室を通して、山形の環境保全を自分ごととして捉えることができるような人づくりを目指して、地球の資源には限りがあること、世界や日本の環境と山形県の自然環境は繋がっていて、相互に関わりあっていること(相互性)などを学ぶ内容としています。

担当者からのメッセージ

環境・工作教室は、毎年継続的に実施しています。参加者は低学年の子どもの多いのですが、保護者の方と参加することで、その場だけでなく家庭での会話・実践にも繋がる企画内容にしています。クイズを出題すると、家族で相談しあう様子も見られ、コミュニケーション能力の向上にも繋がっています。これからも、持続可能な社会をけん引する人づくりを目指し、実施していきます。



主任 二藤部 真澄さん

福島



誰一人取り残さない

明るい未来へとつながる

子ども達のESD活動を応援



会津ユネスコ協会

福島県会津若松市



共に明るい未来を創ろうとする子ども達のESD活動を紹介します、各校でのESD活動の普及拡大に努めています。

会津ユネスコ協会は、1980年11月18日、地元有志によって設立されました。現在、会員は、法人会員を含め82名。設立以来、ユネスコ憲章の理念のもと、世界中の人々が平和で幸せな生活が送れることを願い、活動しています。2015年世界サミットでSDGsが提唱されてからは、誰一人取り残さない持続可能な社会構築に向けて積極的にESDを推進してきました。当初は、会員向けの講演会や研修会を実施しESDへの理解を深めるようになってきましたが、ESDは社会全体で推進していくことが重要であるため、特に未来を創る担い手を育成している学校教育への応援をすることとしました。ESDはホールスクールで取り組むことにより、子どもの主体的・体験的な学びがより効果的に実現できるようになります。会津域内でESD活動に積極的に取り組んでいる学校を紹介する第1回「ESD/SDGs活動実践発表会」を開催しました。今後もESD/SDGsがより多くの各校で実践されることを願い、今後も普及活動を展開していきます。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について

- 上: ESD/SDGs活動実践発表会
ESD活動の普及を目指し、ESD活動推進校の実践発表会を開催した猪苗代湖の水環境保全のため、ヒシ刈りの活動を発表した
- 下左: ユネスコ教室
毎年、北会津地区内の小学校3校で、ユネスコ教室を開催ユネスコ会員が講師を務めている
- 下中: 学校裏の森林の枝打ち作業。林業体験の一環で、学校裏の森林をきれいにしたいという子ども達の願いから、枝打ち作業を行った生木を切るのは、意外に大変だった
- 下右: 子ども達の思いを込めて花壇の苗植えを実施
今年のテーマは、世界平和。日本とウクライナの国旗をイメージした花壇をめざし、苗植えを行った

〒965-0871 福島県会津若松市栄町3-50
会津若松市生涯総合学習センター(會津稽古堂)内
電話 0242-22-4700
E-mail bandaisaon@ymail.ne.jp

活動紹介

会津域内「ESD/SDGs活動実践発表会」の開催 ～会津から発信!Act locally～



ウクライナ(右側)の国旗花壇と日本(中央)の国旗花壇
世界平和への祈りがこめられている

プロジェクト概要

「ESDはユネスコスクールがやればいいのでは」という意外な言葉。ESDが学校教育でなかなか進まない現状を踏まえ、各学校の本気度を上げていくためには、どのようにしたらよいかを考えました。情報は瞬時に世界を駆け巡る時代になり、世界情勢は確実に私たちの生活に大きな影響を及ぼし続けています。そんな時代だからこそ、世界規模の課題を足元の活動から考えてみることで、足元の課題から地球規模の課題とのつながりを考えてみることは非常に重要な視点だと思います。SDGsを知っていることから、やってみるという1歩踏み出す学びを期待しています。この現状を変えていくために、会津ユネスコ協会では国際委員会主催で「ESD/SDGs活動実践発表会」を開催しました。会津から発信「Act locally」で、世界とつながることをめざしています。



毎年、欠かさず取り組んでいる書きそんじハガキキャンペーン運動の一コマ
事前に保護者宛に協力依頼文書を配付し、協力を呼びかけた

ESD実践のポイント

昨年度までのコロナ禍でしたが、ESDへの理解と普及を図るため、教員向けの講演会や管理職向けのESD説明会を実施しました。12月末に「ESD/SDGs活動実践発表会」を開催し、地区外の学校からも参加があり、ESD実践校が少しずつ増えていることがわかりました。発表会では、会津の伝統野菜を栽培し、修学旅行で京都市内の中学校と伝統野菜で交流を深めた事例、学校裏の林を活用して林業体験を行い、身近な環境整備に取り組んだ事例、猪苗代湖水環境保全のため、ヒシ刈りを行い猪苗代湖水環境保全に取り組んだ事例など、優れた実践を見いだすことが出来ました。また市内各校を回り、学びの機会が少ない国々の子ども達へ思いを寄せ、毎年書きそんじハガキの収集活動を実施している事例、学校花壇づくりで日本とウクライナの国旗をイメージした花壇を整備し平和を祈った事例、SDGs活動と称し市内各所でクリーン作戦を展開した事例等を見つけることが出来ました。これからも、多くの学校の「Act locally」で小さな1歩を見だしていきたいと思います。2024年度には、第2回目「ESD/SDGs活動実践発表会」を開催する予定です。

担当者からのメッセージ

2015年に世界サミットでSDGsが提起されて以来、多くの学校でも実践が進められるようになってきていますが、活動ありきだけで終わってしまいがちです。地球規模の課題や地域課題が見えてきている昨今ですから、「自分事としてできることは何か。」を見いだす力は発想豊かな子ども達自身がしっかり持っています。解決に向けた活動を子ども達主体で踏み出せたら、今の小さな1歩が将来には大きな1歩になることでしょ。ホールスクールでのESDカリキュラムが構築されるようになれば、自ずと各学校の特色も一層際立つのではないかと考えています。



会津ユネスコ協会
国際委員長 橋本千賀子さん

福島

文化(世界遺産)

青少年の心に

平和の砦を築く



いわきユネスコ協会



いわきユネスコ協会は、公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟に所属する日本各地の
ユネスコ協会約280団体を構成する一組織です

世界で初めて民間のユネスコ協会が誕生したのは、1947年日本の仙台の地でした。いわきユネスコ協会は、いわき市に1976年(昭和51年)に設立し令和5年で創立47年目となる団体です。ユネスコ憲章の理念「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」のもと、「書き損じハガキの回収」「青少年との平和シンポジウム」「文化講演会」「ユネスコ出前授業」「ユネスコ平和作文コンクール」などの活動を推進しています。会員数は個人と賛助会員合わせて80名程です。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



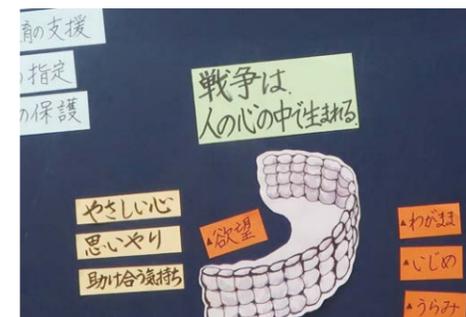
写真について
上: 国際連合とユネスコ
下左: 一人一人が地球号の乗組員
下中: 地球温暖化の仕組みを学ぶ
下右: 子どもたちのワークシートから

〒970-8026 福島県いわき市平字堂根町4番地の8
いわき市教育委員会生涯学習課内
いわきユネスコ協会事務局
電話 0246-22-7556
E-mail iwaki.unesco@kxa.biglobe.ne.jp
URL <https://www7b.biglobe.ne.jp/~iwaki-unesco/>



活動紹介

持続可能な社会の 創り手を育てる 「ユネスコ出前授業」



戦争は人の心の中で生まれる一板書から

心の中に平和の砦を築く・話し合い

プロジェクト概要

市内の小学校19校を訪問し、小学校6学年を対象として、「ユネスコに関する活動内容紹介や平和についての話し合い活動」や「SDGsに関する学習活動」などを行っています。活動の中心は「平和な世界の構築」です。SDGsの活動目標4と16に直結する内容です。「戦争は人の心の中で生まれる」ことの意味を考えることから始まり、話し合い活動を通して「人の心の中に平和の砦を築かなければならない」その方策を見つけていきます。普遍的なテーマについて児童は真剣に考え、答えを探していきます。児童一人一人が活動を通して平和な心を築くことを目指します。そして、私たち一人一人が日常生活で実践できることを考え、共有する場を設けます。私たちユネスコ協会会員の中から希望を募り15名程が講師となり、共に考えています。

ESD実践のポイント

この事業の目的は「ユネスコ憲章」に共鳴する青少年を育てることにあります。「ユネスコ憲章」は大戦の反省から「人類が戦争を繰り返してはならない」という願いに基づいています。私たちの活動はESDの手法にも直結しています。戦争は持続不可能であり、平和な社会を構築する持続可能とは対立する概念です。子どもたちは、世界には学校へ通えない子どもたちが2億4,000万人以上いること、15歳以上の非識字者が7億7,000万人以上もいることに思いを寄せ「世界寺子屋運動」を理解し、「原爆ドーム」が世界遺産に登録された意味から「戦争を繰り返さない」メッセージを知ります。「エコパーク」や「ジオパーク」のユネスコの取り組みから地球温暖化課題解決への糸口を見つけます。また「平和」についての考えを綴る「平和作文コンクール」にも参加を奨励しています。

担当者からのメッセージ

ユネスコ出前授業の子どもたちの発言に「戦争」という現実を反映する言葉が頻繁にみられるようになりました。子どもたちの発言から学ぶことも多く、例えば『平和の砦を築くこと』に対して「砦の外側ばかりを見ていてもだめ。砦の内側をしっかり守っていくこと」「生き物の命で世界はつながっている。世界の人々と仲良くする」などの発言が多数みられます。未来を創る私たち一人一人が「平和について持続的に考え、話し合う」ことが「平和な心」を創ります。これからも青少年と共に考える活動を継続し、持続可能な社会の創り手の育成に努めてまいります。



ユネスコ出前授業委員会
委員長 渡邊 隆さん

福島



誇りに思う心を育てるESD

ふるさと只見を愛し、



只見町教育委員会

福島県南会津郡只見町



ふるさとの良さを学び、 課題を見つめ、 未来を切り拓く力へ

【ブナと生きるまち 雪と暮らすまち 心豊かに生きるまち】
を町の理念とし、自然首都只見宣言をしました。また、平成26年にはユネスコエコパークに登録され、町内の3小学校と1中学校はユネスコスクールとなりました。それぞれの地域の特性と良さを生かしながら、ふるさと只見愛を育み、ふるさとの豊かな存続に寄与できる人材を育てる教育と考え、ESDの実践を通して地域を愛し、誇りに思う子ども育成を目標に取り組んでいます。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について
上: 川の学習 朝日小
下左: 地域の方と学びを共有
下中: 本物を見て学ぶ
下右: 中学生がエコフレンドリーを提案

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字
町下2591-30
電話 0241-82-5320
FAX 0241-82-2337
E-mail bunka@town.tadami.lg.jp
URL <https://www.town.tadami.lg.jp/information/education/index.html>



活動紹介

町内小中学校のESD



専門的な知識を得る場がある



生徒・教師・保護者が学びを共有

プロジェクト概要

町内の学校は全てコミュニティスクールであり、只見小学校でも只見学(只見の「人・もの・こと」)を学びます。地域の食材を生かし、伝統的な食べ物に新たな視点を持って、持続可能な食文化について学ぶ時間を確保しています。明和小学校の場合は生活科、総合的な学習の時間を中心にこれまでに培ってきたESDの成果を自然、環境、歴史、文化など多様な角度から学習を展開しています。明和地域の人々に協力を得ながら、伝統芸能である神楽や田植え稲刈りを体験することができました。只見中学校は地域とともに学ぶ生徒の育成を念頭に置いてESDを実践しています。総合的な学習の時間を軸として教科横断的な学習プログラムを展開しています。特に新聞紙レジ袋の作成と利用を地域とともに実践することで、社会に貢献するだけでなく、俯瞰的なものの見方、考え方ができることを目標としています。

ESD実践のポイント

各小学校では学びの羅針盤として、ESDストーリーマップを作成しています。ストーリーマップは昨年の実践を元にブラッシュアップを重ねて、より良い学びに繋げています。朝日小学校は、児童の気づき、考えを反映する手法に取り組んでいます。今年度はこのブラッシュアップのために教室内の掲示板にストーリーマップを掲示し、学びごとに児童たちがどのような考えを持ったのか、どのような学びをしたのかを付箋のように貼りつける活動によって、教師、児童の振り返りが容易になり、次の課題も誰もが共有しやすいものとなりました。保護者会に来た保護者であっても、今学校でどのようなことについて学び、今後どのような取り組みをするのかを、すぐに理解できます。児童の課題を地域全体で解決するホールスクールアプローチの好例として、自信を持って紹介できます。

担当者からのメッセージ

毎年11月にはESD研究公開授業が、また2月には地域成果発表会が行われます。オンラインも含めるとたくさんの方に見ていただくことができるため、子どもたちもやりがいを持って取り組んでいます。毎年学びを積み重ね、只見愛に繋がっている様子を感じることができます。大人顔負けのプレゼンテーションは、大変頼もしい限りです。



只見町教育委員会
文化スポーツ係 目黒 英樹さん

全国共通事業

ESD for 2030 学び合い プロジェクト

第2期ESD国内実施計画(2021年5月策定)※で「テーマ別の学び合いの仕組み」が位置付けられ、2021年度から始まったプロジェクトです。様々な主体が垣根を越えて参加すること、相互の学び合いや実践活動を通じて各主体の活動の向上を図ること、得られた知見を活かしてESD活動を全国に広めていくことを目的としています。全国8か所の地方ESD活動支援センターが地域に合わせたテーマを設定し、学び合いの場づくりとESD活動の実践に取り組んでいます。2022年度からは「気候変動」を共通のテーマに掲げて各地で様々な企画が行われています。東北地方では地域目線、地域の資源に着目して学校教育におけるESD活動の推進に取り組みました。

※ESDに関する国際枠組み「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて(ESD for 2030)」を踏まえて関係省庁が連携して策定した計画



▶ 2021年度  山形

地域の素材から考える
ESD/SDGs 教育の可能性

勉強会 3回	実践活動 1回	振り返り会議 1回
-----------	------------	--------------

連携 やまがたSDGs・ESD研究会、山形県教育センター
ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアム

山形県内でESD活動の実践に取り組む環境団体や自治会、教員が集まり、互いの活動から児童・生徒へのアプローチ等を学び合う勉強会を開催しました。在来生物に視点を当てた自然体験、田踊りや縄文文化とSDGsを紐づけて考える授業、県産材の加工を軸に森林整備に目を向けて探求を行った特別支援学校の授業等、様々な事例をご紹介いただきました。また、取り組みに対してESDの専門家から助言をいただき、大事にすべき視点や課題について議論を深めました。参加者からは「地域の営みと連携することが継続につながり、そこに地域の営みを教育に生かす価値があるとのコメントに気づきを得た」等、勉強になった・刺激を受けたとの感想が多く寄せられました。



実践活動

▶ 2022年度  秋田

東北モデルプログラム
「ワールド・気候スタディズ
ESD/SDGs」

勉強会 2回	実践活動 1回	意見交換会 1回
-----------	------------	-------------

実施校 秋田県大仙市立大曲南中学校

連携 一般社団法人あきた地球環境会議(地域ESD拠点)
一般社団法人日本キリバス協会(地域ESD拠点)

ESDカリキュラムを実践している大曲南中学校の協力のもと、キリバス共和国について学び、気候変動の影響や対策を話し合う対話型の授業を実施しました。キリバスは太平洋中部に位置し、海面上昇など気候変動による影響を受けています。キリバスの中学生とのオンライン交流授業では、干ばつによる生活への影響、安全な飲み水の確保が難しいこと、気候変動が身近にあることを教えてもらいました。授業後はすべての生徒が気候変動について当事者意識をもってとらえることができるようになり、グローバルな視点で足元の行動を考える意識、世界の人々と一緒に自分ができることに取り組む意識が生まれるなど、学びの成果が見られました。



オンライン交流会

▶ 2023年度  青森

東北モデルプログラム
「ローカル課題から考える
気候変動教育」

勉強会 5回	実践活動 1回	意見交換会 1回
-----------	------------	-------------

実施校 青森市立千刈小学校(地域ESD拠点)
青森市立堤小学校(地域ESD拠点)

連携 NPO法人青森県環境パートナーシップセンター(地域ESD拠点)
青森大学(地域ESD拠点)
青森地方気象台

小学校で「青森」を入口に気候変動について学ぶ授業を実施しました。りんご農家やホタテ漁師をゲストティーチャーに招き、身近なところで起きている影響を教えてもらいました。また、青森大学の留学生との交流授業では、児童が留学生に気候変動の説明を行い、留学生も自国での影響や温暖化対策について紹介しました。児童の主体的な学びから学校全体での取り組みに発展したり、中学校にも一緒に活動をしようと呼びかけたり、学習意欲の高まりと行動変容に結びつきました。教員向けの勉強会も実施し、気候変動教育についての意識化と学びの継続につながったと報告があった他、他校の学校とつながる機会を継続してほしいと意見が寄せられました。



異文化交流会